

ながとじん 長門人

故郷の海



伊藤周子さん

いとう しゅうこ／昭和54年生／広島県廿日市在住
錦町区出身／宮島水族館勤務

「ふるさとながと・こんにちは」

大好きな長門を離れて5年になります。現在、私は広島県にある宮島水族館に勤務しています。この仕事は、これまで県外に出たことがなかった私が初めて自分で選んだ夢の道でした。

誰も知らない場所で不安と緊張の毎日、おまけに就職に対しても現実是非常に厳しく、何度も挫折しそうになりました。その度に大好きな仙崎の海を思い出して頑張ってきました。家族や周りの人にも支えられ、遠回りもしましたが念願叶って小さい頃からの夢であった水族館の飼育員になることが出来ました。先日、偶然にも高校時代の恩師が水族館に訪れて下さり、久しぶりの再会に感動するとともに、大変心強く感じ、仕事への励みにもなりました。



高校の文化祭で
(前列左が伊藤さん)

今は、月に一度の連休を利用して、毎日の忙しい仕事で疲れた体を休めに仙崎に帰っています。宮島のある瀬戸内海も好きですが、やっぱり私は仙崎の海がどこよりも大好きです。このキレイな海をこれから先も守っていききたいものです。

三味線は人生の宝物

「達者です」



田中スミエさん

たなか すみえ／88歳／洲崎町区

三味線を教えて57年。今でも8人のお弟子さんを持つ田中さん。「好きですからこれまで続けて来られたのです。私にとっては人生の宝物です」という。三味線との出逢いは17歳、父親の仕事の都合で渡った韓国の釜山。20歳で名取となり「杵屋榮壽三」を襲名。「戦争で昭和20年に生まれ故郷の仙崎に引き揚げたのですが、主人と父親を亡くし、母親と娘の女3人、生活の糧にと思い三味線と舞踊を教え始めました」と田中さん。

健康の秘訣を尋ねると「無理をせず、規則正しい生活ですかね。そして散歩と西覚寺へのお墓参りは毎日欠かさないようにしております」と。「一人暮らしですが、近所の方も良くしてくださいますし、気心の知れたお弟子さんに囲まれ、全然寂しくはありません。私は芸事一筋で世間知らずなものですから、普段の物事は逆にお弟子さんから教えてもらっております」と笑顔で話してくださいました。

